平松廃寺　－瓦からみた謎の古代寺院―

平松五丁目（ＨＪ 705 次）・三丁目（ＨＪ 731 次）

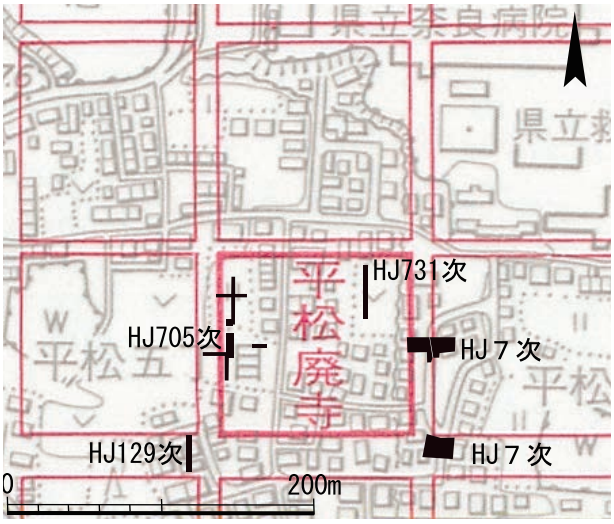
平城京の西端に近い現在の平松三・五丁目付近では戦前から瓦が採集されており、なかでも蓮華紋の外側に唐草を巡らすという珍しい意匠の複弁８弁蓮華紋軒丸瓦（6345 Ａ）は有名で、地名をとって平松廃寺とよばれました。昭和10年(1935)に立正大学考古学研究室の数名が瓦を採集し、それまで採集された軒瓦の中に無子葉単弁８弁蓮華紋軒丸瓦や重弧紋軒平瓦等が含まれていることから、７世紀後半の創建寺院と考えました。

一方、平成５・６年（1993・1994）年に橿原市田中町の田中廃寺で実施された発掘調査の出土瓦には、平松廃寺採集品と同笵の無子葉単弁８弁蓮華紋軒丸瓦（田中廃寺ＩＢ）と 6345 Ａがあることから、田中廃寺を平城京内に移建した寺が平松廃寺である可能性が指摘されました。田中廃寺は、蘇我氏傍系の田中臣の氏寺との指摘があります。

このような瓦による先行研究ののち、平成 28 年（2016）に初めて想定寺院地内である右京四条四坊十二坪の西辺で発掘調査(ＨＪ 705 次調査)を実施しました。奈良時代の瓦を含む溝がみつかり、出土瓦の内容や量からみて、寺院があったことは確実と判断できるようになりました。

続けて平成 30 年（2018）には十二坪の北東辺で発掘調査（ＨＪ 731 次調査）を実施しました。北から南へ下る傾斜地を大規模に埋め立て造成した痕跡や、その上から掘り込んだ溝・土坑を検出するとともに、田中廃寺と同笵の７世紀後半の軒丸瓦２種の出土を初めて確認できました。

ＨＪ 731 次調査全景（南西から）



調査地位置図（1/5,000）

平成 28・30 年の調査ともに、基壇等の遺構は無かったのですが、多量に出土した瓦から、平松廃寺の性格の一端が明らかになりました。

平松廃寺の出土瓦から

平成 28・30 年の両調査の平松廃寺の出土瓦類は大きくＡ・Ｂ・Ｃ群の３つのグループに分けることができます。

Ａ群は表面が黒色、内部は淡褐色で、軟質に焼きあがる瓦です。出土瓦の７割を占めます。平瓦の大半は粘土紐を素材とした桶巻作りです。軒瓦は複弁８弁蓮華紋軒丸瓦 6345 Ａと、６回反転偏行唐草紋軒平瓦 6642 Ｄが多数を占め、奈良時代初めの平松廃寺創建瓦と考えます。この他、薬師寺所用の複弁８弁蓮華紋軒丸瓦 6276 Ｅがありますが、薬師寺出土品よりも紋様型（笵）の傷みが進んだ段階のもので、製作技法にも違いがみられます。このことから、薬師寺の造瓦所から、平松廃寺の造瓦所へ笵が移動し、製作されたものと判断できます。Ａ群の瓦は田中廃寺ではみつかっていません。

Ｂ群は表面が青灰色、胎土中に白色の砂粒を多

く含んだ硬質の瓦です。平瓦は粘土紐を素材とした桶巻作りです。軒丸瓦は田中廃寺ＩＢと同笵の無子葉単弁８弁蓮華紋、軒平瓦には顎部にも施紋している点が特徴的な重弧紋軒平瓦があります。田中廃寺 IB は藤原京造営に伴う補修期の瓦と位置付けられている瓦です。またＡ群にもみられる 6345 Ａ・6642 Ｄも確認できます。Ａ・Ｂ両群の 6345 Ａを比較した結果、Ａ群の 6345 Ａの方が笵傷が進行しているとわかりました。さらには、田中廃寺でも 6345 Ａは出土しており、これがＢ群であることから、これらの軒瓦は７世紀後半に製作された田中廃寺所用品とみてよく、平松廃寺創建時に持ち込まれたものと考えます。

Ｃ群は表面が淡褐色、内部は黒色で、やや軟質に焼きあがる瓦です。９点しかみつかっていません。軒瓦には田中廃寺ＩＡと同笵の有子葉単弁８弁蓮華紋があります。田中廃寺ではＩＡの出土量が多いこと、ＩＡはＩＢに先行するとみられることから、７世紀中頃の創建瓦とされています。このことからＣ群の瓦もＢ群の瓦同様、田中廃寺所要瓦であり、平松廃寺に持ち込まれたものと考えるのが妥当です。

このような田中廃寺出土瓦との同笵関係や瓦の特徴の比較の結果、Ｂ・Ｃ群は７世紀後半の田中廃寺所用品で平松廃寺に持ち込まれたもの、Ａ群は８世紀初めの平松廃寺創建瓦と評価できます。これらの成果から、平松廃寺の前身寺院は田中廃寺であり、平城遷都とともに移建された寺とみて間違いないと考えます。

なお、平城宮第一次大極殿の瓦は、宮内の他地点より黒色度合が強く、中国の重要宮殿にみられる黒色の瓦を模倣すべく製作されたとの指摘があり、同じ頃製作された平松廃寺の創建瓦Ａ群との類似性や、官の大寺である薬師寺の笵を使用していることは注目されます。一方、田中廃寺の造立者とされる田中氏には、天武朝では壬申の乱の功臣の足麻呂や、持統から文武朝に活躍した法麻呂がみられますが、奈良時代では後半に正四位下の多太麻呂がみられる程度です。このようなことから、平松廃寺造営の際には、田中氏の手を離れ、官が造営主体となり、官寺化した可能性も考えられます。

平松廃寺の創建瓦（Ａ群の瓦、6345 Ａ－ 6642 Ｄ）

Ａ群の瓦（８世紀初め）

Ｂ群の瓦（７世紀後半）

Ｃ群の瓦（７世紀中頃）